

コース名	1番コース 三浦・岩礁のみち
どんなコース？	三浦半島の先端部の海岸を歩くコースで、浦賀水道や房総半島を眺め、磯遊びを楽しみながらのハイキングができるコースです。
みどころ	<p>○劔崎－劔崎の名のおこりは、徳川時代の万治年間であるといわれています。幕府の官財を積んだ船が、この沖で暴風のため難波し、木材もろとも沈没してしまい、そこで海南神社の神主が海に剣を投じて祈るとすぐに風波が静まり、木材が浮かび出て、それをくり船で磯に運んだといいます。また、灯台は明治4年に完成し点灯しましたが、震災で破損したのち大正15年に再建されたものです。</p> <p>○江奈湾の干潟－「干潟」とは、もともと遠浅の浜のことでひき潮のときに、海底が広くあらわれることをいいます。この干潟では四季を通じていろいろな生物を見ることができます。中でもカニ類が多く、アシ原にはアカテガニ、アシハラガニ、泥場にコメツキガニなど、また、水鳥も多くキアシシギ・ハマシギ・コチドリ・コサギなどを見ることができます。冬はユリカモメ・ウミネコが飛びかい沖の岩礁ではウミウも休息しています。</p> <p>○白浜毘沙門天－ここは持陽山慈雲寺毘沙門堂と称し、本寺は応安元年(1368年)妙謙和尚によって開かれたもので、この七福神の毘沙門天は行基の作と伝えられて、智恵と武勇の守り神としてあがめられています。特に北方を守る武神とされ、厄除け・恵方の神様です。七福神とは、このほか金光恵比須(円福寺)・寿福大黒天(延寿寺)・鶴園福祿寿(妙音寺)・桃林布袋尊(見桃寺)・長安寿老人(白髪神社)・釜龍弁財天(海南神社)です。</p> <p>○盗人狩と海岸－「盗人狩」とは、昔、盗賊が追われて、この山の端まで来て下を見ると、恐ろしい断崖(高さ約30m)と怒濤のさか巻きに、ぞくぞくと身震いして足がすくんで動けなくなり、たやすく捕まったところといい、それで「ぬすとがり」の名が残っています。この海岸は岩礁で断崖が多く、足下の黒い岩には外界の大波が打ち寄せ、白いしぶきをあげています。この波のうねりは大蛇のように、うねうねと寄せては砕かれ、その都度崖に荒々しい音をたてています。</p>
起点	三浦市南下浦町松輪：松輪バス停(京浜急行三浦海岸駅から劔崎行または劔崎経由三崎東岡行バス15分)
終点	三浦市宮川町：宮川町バス停(京浜急行三浦海岸駅へバス25分)
距離 難易度	10.3km、所要3時間 コースは平坦ですが、距離が長いので行程には余裕を持ってください。また、海岸の岩場を歩くため滑りにくい靴が必要です。干潮時は歩行可能ですが、高波や満潮時は通行できない場所もありますので、無理をしないようにしましょう。
このみちは	<p>神奈川県の出発点は久里浜のフェリー乗り場ですが、ここから松輪バス停(三浦市南下浦町松輪)までは連絡区間となっています(バスと鉄道での接続)。この途中の三浦海岸に首都圏自然歩道三浦インフォメーションセンターがあります。</p> <p>1番コースの起点は松輪バス停です。ここから間口漁港までは市道を歩いて1.6kmで、夏はスイカ、冬は大根畑と四季を通じ農作物が目に入ります。間口漁港から湾をまわって海岸を行くと県の景勝50選のひとつ劔崎(つるぎざき)です。断崖の上には、東京湾の玄関口・浦賀水道への航路を照らす劔崎灯台が立っています。さらに岩畳を進むと江奈湾です。これより県道を歩いて、左に干潟を見ながら坂を上がると三浦七福神のひとつ白浜毘沙門天入口です。畑の中を進み、坂を下ると白浜毘沙門天です。ふたたび海岸に出て、磯づたいに歩くと右に毘沙門洞窟があります。毘沙門湾の中ほどに児童公園があり、湾を目の前にして休憩するには良いところです。湾をあとに、磯そして干畳敷を過ぎると盗人狩に着きます。岩畳をさらに進み、左に観音山を見ながら右に曲がって行くと宮川湾です。約300mの坂を登ると終点の宮川町バス停です。</p> <p>なお、このコースは磯や岩礁帯を歩くため、足下に十分注意すると共に、高波時や満潮時には、歩けないところもありますので無理はしないでください。</p>
撮影ポイント	盗人狩(ぬすとがり)にかかる木橋(三浦市)
トイレ	宮川湾に公衆便所があります。
現地の 問い合わせ	三浦市商工観光課 046(882)1111 三浦市観光協会046(888)0588 京急バス三崎営業所 046(882)6020